BOTTLERS JAPAN HOLDINGS INC.

CSVレポート 2020

ダイジェスト版

コカ·コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

BOTTLERS JAPAN HOLDINGS INC.

Paint it RED!
未来を塗りかえろ。

私たちは、中期計画に基づき、「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、
価値を創造する」ことを掲げたミッション・ビジョン・バリューへ刷新し、
その総称を「Paint it RED! 未来を塗りかえろ。」としました。
当社のコーポレートカラーであり、情熱を表す色「赤（RED）」をもって、
価値創造を実現する強い意志を表しています。
これまでの延長線上ではない、新たな価値を社会に創出できる
企業グループへと進化することを目指します。
道のりは、決して平坦なものではないかもしれません。
けれども私たちは挑戦します。
たくさんの仲間とともに、未来に向けて。

CONTENTS

03 トップメッセージ
05 数字で見るCCBJHグループ
07 価値創造サイクル
09 コカ・コーラシステムのマテリアリティ
11 CCBJHグループのコミットメント
13 プラットフォーム 「多様性の尊重」への取り組み
15 プラットフォーム 「地域社会」への取り組み
17 プラットフォーム 「資源」への取り組み
21 2020 HIGHLIGHTS 「World Without Waste（廃棄物ゼロ社会）」を目指して
25 CCBJHグループの概要
26 工場見学のご案内

【用語について】

CCBJHグループ（私たち）はコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス（株）および連結子会社8社（コカ・コーラ ボトラーズジャパン（株）、コカ・コーラ ボトラーズジャパングループ各社※、キューサイ（株））ならびに（株）キューサイ分析研究所、（株）キューサイファーム島根、CQベンチャーズ（株）を指します。CCBJIはコカ・コーラ ボトラーズジャパン（株）を指します。CCBJIグループはコカ・コーラ ボトラーズジャパン（株）およびコカ・コーラ ボトラーズジャパングループ各社を指します。ボトラー社は日本コカ・コーラ（株）が指定する全国のボトリング会社を指します。また、「コカ・コーラシステム」には日本コカ・コーラ（株）およびボトラー社・関連会社が含まれます。顧客はお客さま（主に消費者を指す）およびお得意さま（主にお取引先を指す）を含みます。

※ コカ・コーラ カスタマー マーケティング（株）、コカ・コーラ ボトラーズジャパンベンディング（株）、FVジャパン（株）、（株）カディアック、コカ・コーラ ボトラーズジャパンビジネスサービス（株）、コカ・コーラ ボトラーズジャパンベネフィット（株）

新企業理念

Paint it RED!

このミッション・ビジョン・バリューは、お客さま、株主さま、
地域社会をはじめとするあらゆるステークホルダーのみなさまに
選んでいただけるパートナーであり続けることを謳っています。
また、このあるべき姿の実現に向け、持続可能な成長を果たしていくこと、
社員と会社がしっかりと学んでいくこと、誠実さと信頼を大切にすること
などを盛り込んでいます。

Mission

すべての人にハッピーな
ひとときをお届けし、価値を創造します

Vision

- すべてのお客さまから選ばれるパートナーであり続けます
- 持続可能な成長により、市場で勝ちます
- 常に学びながら成長します
- コカ・コーラに誇りを持ち、誰もが働きたいと思う職場をつくります

Values

- 学ぶ向上心を忘れません
- 変化を恐れず機敏に行動します
- 結果を見据え最後までやりきります
- 誠実と信頼に基づいた気高い志で行動します

新たな価値創造は、これまでの延長線上にはない。飽くなき挑戦心とともに、より良い未来へ。

さらなる成長への指針として、ミッション・ビジョン・バリューを刷新。

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングスグループ（CCBJHグループ）は、共創価値（CSV：Creating Shared Value）を経営の根幹としており、社会との共創価値創出に向け、E（環境）、S（社会）、G（ガバナンス）関連の取り組みを推進しています。

近年の飲料業界を取り巻く環境に目を向ければ、消費者ニーズの多様化、市場競争の激化など、さまざまな変化の波が押し寄せています。このような中、私たちは経営統合や事業改革を進め、新たな経済価値、社会価値を創出してきました。

今後、さらなる成長を実現していくためには、これまでのやり方は選択肢にはありません。中期計画に基づき、不退転の決意をもって新企業理念「Paint it RED! 未来を塗りかえろ。」を総称とするミッション・ビジョン・バリューに刷新しました。当社のコーポレートカラーであり、情熱を表す色「赤（RED）」をもって、価値創造を実現する強い意志を表しています。私たちは「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造します」という「ミッション」の達成を目指します。その達成のため、私たちは常に学びながら成長し、お客さま、株主さまをはじめとするあらゆるステークホルダーのみなさまに選んでいただけるパートナーであり続けることを目指しています。この新たなミッション・ビジョン・バリューは、持続可能な成長を果たし、価値を創造し続けていくという強い意志と行動指針を表しています。

価値創造に向けた持続的成長への好循環の創出。

価値創造による持続的成長を達成するためには、ステークホルダーのみなさまとの協働、エンゲージメントが不可欠です。私たちは長年にわたって育んできた地域とのつながりを財産とし、地域のみなさまとの連携による環境保全活動や地域活性化への取り組みを継続して推進していきます。さらに、廃棄物ゼロ社会（World Without Waste）の実現に向けて容器由来の社会課題解決への取り組みや、私たちの事業に不可欠な「水」を大切に使用する、水源を保護するといった活動をより一層推進します。このようにビジネスで得た利益を地域へ還元することで、企業価値の向上、ひいては社会との共創価値（CSV）の創出というサスティナブルな好循環サイクルにつなげていきます。

コカ・コーラシステムの一員として社会が抱える重要課題の解決に取り組む。

2015年、「SDGs（持続可能な開発目標）」が国連で採択され、サスティナブル社会の実現を目指した人類共通の社会課題に取り組む国際的な枠組みが確立されました。それを契機として私たち企業の取り組み姿勢に対し各方面から強い視線が注がれるようになりました。そのような状況を鑑み、日本のコカ・コーラシステムの一員として、サスティナビリティーの取り組みにおいて優先すべき重点課題（マテリアリティ）を特定しました。SDGsをふまえて絞り込んだ社会課題を3つのプラットフォーム「多様性の尊重」「地域社会」「資源」に分類し、その中で優先すべき9つのトピックをマテリアリティとして特定しました。CCBJHグループはこれをふまえ、今後も地域に根ざした事業活動を展開しながら各課題の解決

を図り、ステークホルダーのみなさまの期待に応えて前向きな変化と社会的価値を生み出すことをお約束します。

社会との共創価値を目指し、成長あるのみ。

2020年は、新型コロナウイルスという未知なる敵が立ちはだかる波乱の幕開けとなりました。東京2020オリンピック・パラリンピックも延期が決定し、スポーツや芸術方面への影響だけでなく、世界経済や人々の生活基盤といった地球社会全体の根幹を揺るがす事態となりました。しかしながら、いかなる局面においても、前進し成長し続けるしかありません。私たちは、取り巻く環境を見据え、今どうあるべきかを真摯に考え、飲料をお届けするという使命を果たしていきます。ビジネスを通して社会課題を解決し、より良い未来を共創していくことに責任を持って取り組む覚悟です。新しいミッション・ビジョン・バリューのもと社員一人ひとりが気高い志を持ち、常に新たな共創価値を創出し続けることで、みなさまの信頼と支持をいただけるような企業グループへと成長してまいります。

コカ・コーラ ボトラーズジャパン
ホールディングス株式会社
代表取締役社長 カリン・ドラガン

数字で見るCCBJHグループ

飲料事業の概要

営業地域

1都2府35県

国内コカ・コーラシステム販売数量の約90%

エリア内の人口

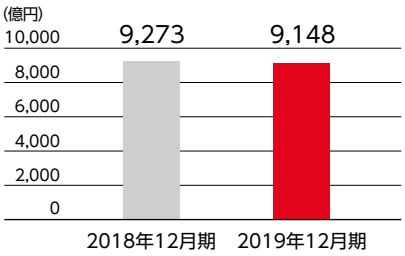
約1億1,200万人

（5,100万世帯）

2019年12月期連結決算ハイライト（IFRS）

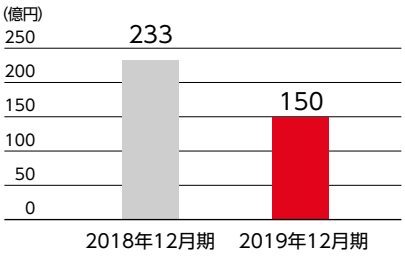
売上収益

9,148億円



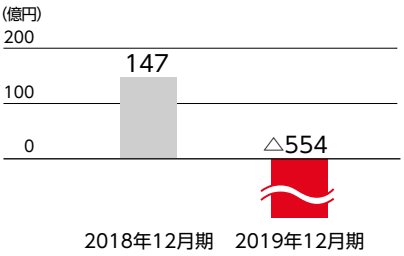
事業利益※2

150億円



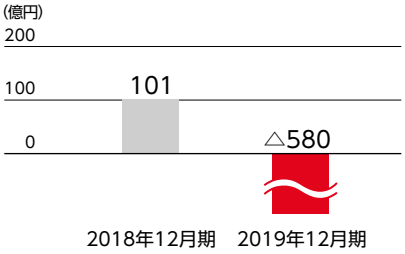
営業利益

△554億円



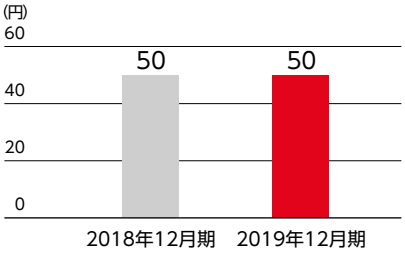
親会社の所有者に帰属する当期利益

△580億円



1株当たり配当金

50円



※2 事業利益は、事業の経常的な業績を計るための指標であり、売上収益から売上原価ならびに販売費及び一般管理費を控除するとともに、その他の収益およびその他の費用のうち経常的に発生する損益を加減算したものです。

生産拠点※1

17工場

自動販売機

約70万台

年間販売数量

5億ケース以上

拠点数

約350カ所

取扱店舗

24万軒

※1　2020年6月より稼働の広島工場含む

セグメント情報

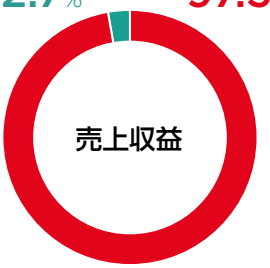
飲料事業

当社は、スーパーマーケット、ドラッグストア・量販店、コンビニエンスストア、ベンディング（自動販売機）、売店・飲食店等で飲料を販売しています。

ヘルスケア・スキンケア事業

当社の100％子会社であるキューサイ（株）を中心に行っており、主に通信販売で、健康食品および化粧品を販売しています。

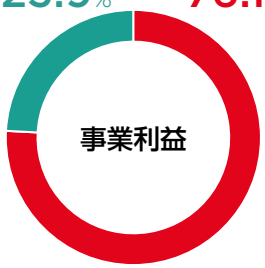
売上収益



飲料事業
8,900億円

ヘルスケア・スキンケア事業
248億円

事業利益



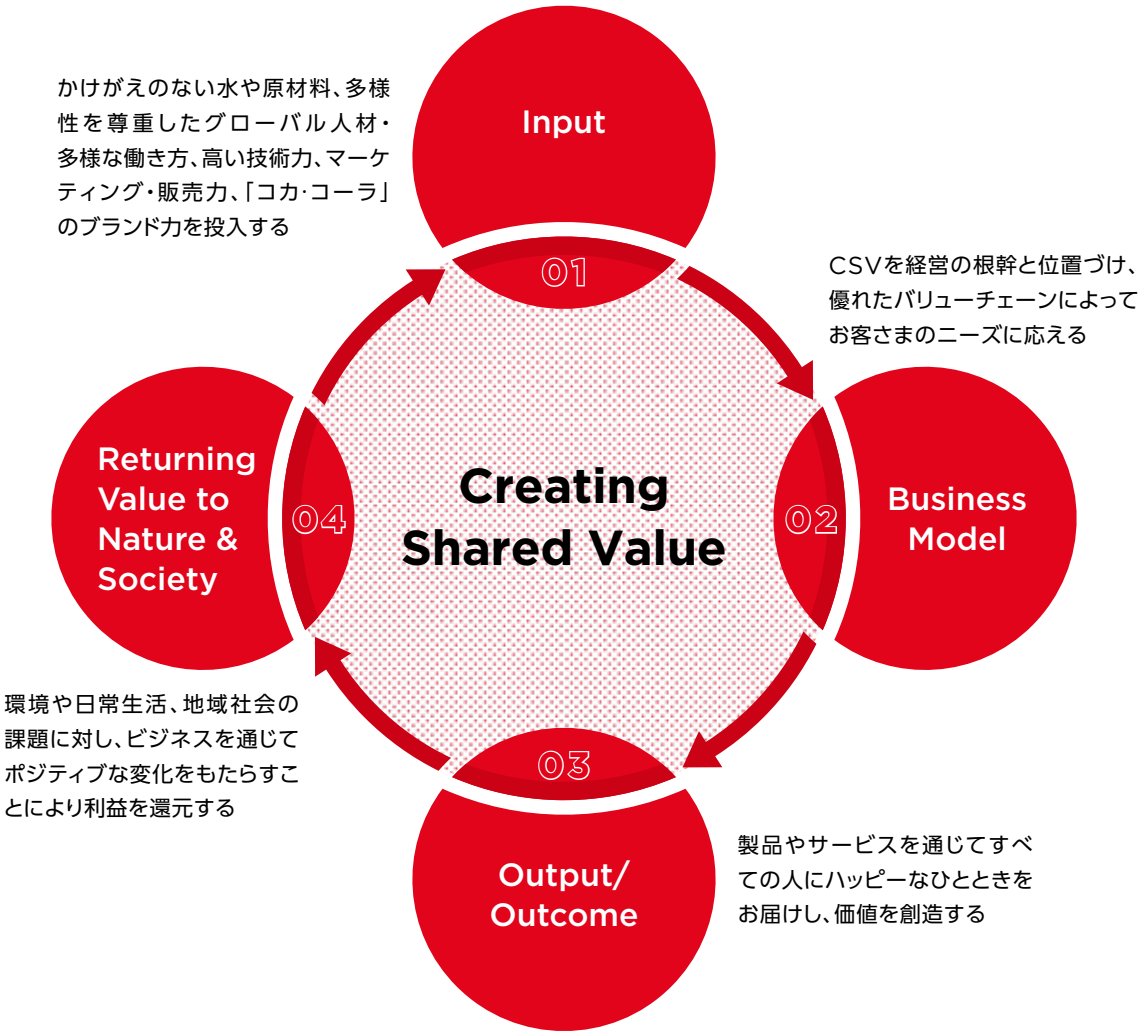
飲料事業
114億円

ヘルスケア・スキンケア事業
36億円

ミッションの実現に向け
持続的成長を果たすために

CCBJHグループは、米国のザ コカ·コーラ カンパニー、
日本のコカ·コーラシステム各社との連携のもと、
かけがえのない水や原材料などの資源を大切に使用し、
すべてのお客さまへ高品質、高付加価値の製品を提供することで、
社会価値と経済価値を創出し、持続的成長の実現を目指しています。

CSV Model



01 Input

自然資本
- 価値創造の源泉となる水と原材料

知的資本
- 「コカ·コーラ」に代表される世界的ブランド群と日本で愛され続けるブランド群
- お客さまのニーズを形にするためのマーケティング力·R&D力
- 日本コカ·コーラや日本のコカ·コーラシステム各社、米国のザ コカ·コーラ カンパニーとのリレーション

製造資本
- 安全·安心の製品づくりを実践するための原料調達網
- 製造工場の最先端の管理システム、設備、技術力
- エリア内を網羅する自動販売機

人的資本
- 多様性を尊重したグローバル人材の活用
- 能力を最大限に発揮できる多様な働き方

社会関係資本
- CSV活動をともに推進するステークホルダーとの信頼関係
- エリアのすみずみまでいきわたる活動力

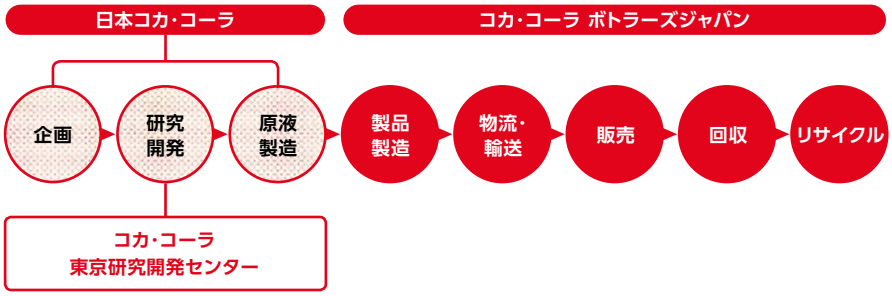
財務資本
- 資本の適切な管理·運用
- 強固な財務体質
- 株主還元

02 Business Model

CCBJHグループの売上高の95%以上(2019年実績)を占める飲料ビジネスでは、お客さまが飲みたいときに飲みたいものを飲みたい場所で提供することを目指しています。そのため、CCBJHグループでは米国のザ コカ·コーラ カンパニーや日本コカ·コーラと連携しながら、「業界最高水準のイノベーションとオペレーションの実現」に努めています。また、グループのさらなる成長機会は社会課題の解決にあると考えており、CSVを事業の根幹と位置づけています。

日本の コカ·コーラシステム

日本のコカ·コーラシステムは、原液の供給と製品の企画開発やマーケティング活動を行う日本コカ·コーラと、製品の製造、販売、回収などを担う5つのボトラー社·関連会社で構成されています。



03 Output/Outcome

CCBJHグループは、社会·市場環境の変化に迅速に対応しながら、お客さまのニーズはもちろん、アンメットニーズ(潜在的なニーズ)にもお応えする製品やサービスを生み出し、製品やサービスを通じて「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造します」というミッションの達成を目指しています。

04 Returning Value to Nature & Society

事業活動によって得られた利益を単に事業へ再投資するだけでは、事業の持続的成長を実現することはできません。CCBJHグループでは、「地域社会」との協働により、課題解決や活性化のための取り組みを強化しています。
また、価値創造の原資となる自然資源は有限であり、将来世代からの預かりものであるとの認識に基づき、自然への還元を重視しています。こうしたCSV活動によって地域社会や環境(資源)の持続性を高めることが、CCBJHグループの事業の発展につながると考えています。

コカ・コーラシステムのマテリアリティ

2019年、日本コカ・コーラとコカ・コーラ ボトラーズジャパンは、世界で掲げられているサスティナビリティーのグローバル目標達成に加えて、日本独自の課題をベースにした戦略を立案し、コカ・コーラシステム共通のアクションプランへ落とし込むことを目的として、サスティナビリティーの課題抽出と優先順位の特定のための大規模な共同調査を行いました。その結果、グローバル目標の達成を目指しながら、日本特有のサスティナビリティー目標を掲げ、どのような課題を解決すべきかの方向性が見えてきました。

サスティナビリティー活動の目的と戦略

サスティナビリティー活動の目的	コカ・コーラシステムは、環境や日常生活、 私たちを取り巻く地域社会などの各場面で、日本が直面する重要な課題に対し、ビジネスを通じて変化をもたらし、さわやかさを届けながら、未来を共創していくことに責任を持って取り組みます。
全体的な戦略	重要課題に対する人々の関心を高め、課題解決の活動を推進するリーダーシップを発揮する ● 「多様性の尊重」に関して、自社の先進的な事例を示しながら飲料業界をリードする ● 日本のすみずみまでいきわたる活動力を有効利用し、「地域社会」との協働の取り組みを強化する ● 「資源」を効率よく持続可能に利用することを目指し、業界と協力しながら、主導的役割を担う

3つのプラットフォームと9つの重点課題

9つの重点課題はさらに、喫緊の課題とする優先事項5項目と、現時点では優先度は比較的低いが重要と捉える重点事項4項目に分類しています。また、各領域における持続可能な開発目標（SDGs）との関わりを検証し、SDGsの達成も目指すことで、社会課題の解決に貢献します。

	多様性の尊重	地域社会	資源
優先事項	ジェンダー	● 全国規模で行う2つのプラットフォーム（多様性の尊重、資源）で影響力を発揮 ● 持続可能で、且つ、地域にも関連性のある取り組み	容器／PET
	年齢／世代		水
重点事項	障がい者支援		温室効果ガス排出量
	LGBTQ		再生可能エネルギー

今後、コカ・コーラシステムは、重要課題をもとに、さらに具体的なアクションを再構築していきます。また、引き続き日本のコカ・コーラシステムの活動の進捗状況や成果は、レポートを通じて定期的に報告すると同時に、NPOや外部専門機関、有識者など第三者意見を取り入れ、時代に即した活動に取り組んでいきます。

マテリアリティ特定プロセス

1 課題の抽出(1)——外部調査により日本国内の社会課題を抽出

SDGs関連レポート・指針、消費者団体・小売業者・NPO・学術団体・ESG投資家といった外部ステークホルダーインタビューを含む外部コンサルレポート、ISO26000、官公庁レポート、外部コンサルタントのベンチマーク調査などから抽出された各種社会課題を分類化し、189の課題を抽出しました。

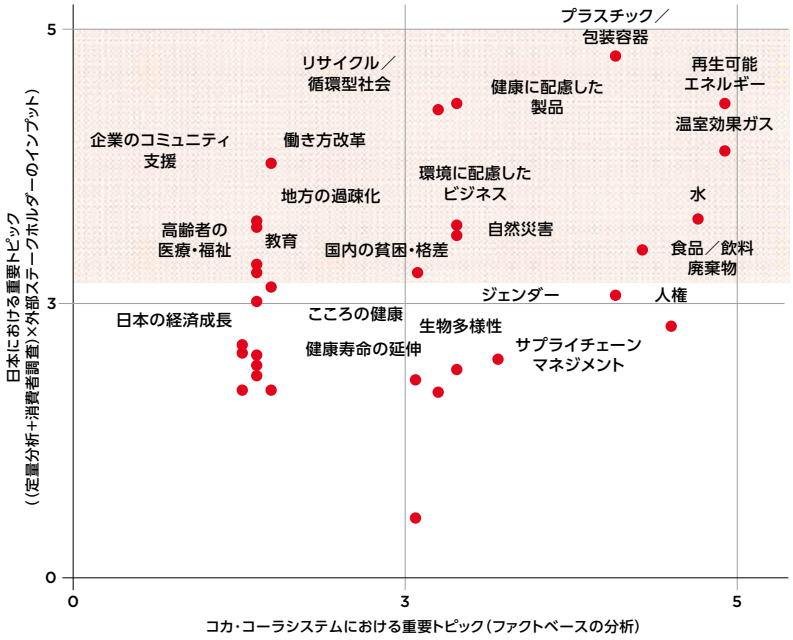
2 課題の抽出(2)——189の課題を33項目に絞り込み

さらに抽出した189の課題は、「再生可能エネルギー」「高齢化社会」などの一般的な共通項目ベースで33の項目に絞り込みました。

3 課題の抽出(3)——33項目をマテリアリティ・マトリックスにプロットし、重点課題15項目を特定

2のプロセスで選定した各33項目の重要度を5段階で評価し、縦軸に日本の社会にとって重要な項目を、横軸にコカ・コーラシステムにとって重要な項目をプロットし、社会的に重要性が高く、かつコカ・コーラシステムのビジネスとの関連性が高い15項目を特定しました。

マトリックス内で「優先度の高い」トピックを抽出



	課　題
環境	プラスチック／包装容器
	水
	再生可能エネルギー
	自然災害
	食品／飲料廃棄物
	温室効果ガス
	環境に配慮したビジネス
	リサイクル／循環型社会
社会	健康に配慮した製品
	地方の過疎化
	国内の貧困・格差
	教育
	高齢者の医療・福祉
	働き方改革
	企業のコミュニティ支援

4 コカ・コーラシステム内におけるインタビュー実施とアップデート

さらにコカ・コーラシステムにおいて、日本コカ・コーラとコカ・コーラ ボトラーズジャパンのマネジメントおよび若手社員総勢のインタビューやワークショップで特定された重点課題4項目を加えて、19項目にアップデートしました。

5 3つのプラットフォームと重点課題9項目を特定

重点課題19項目は、日本コカ・コーラおよびコカ・コーラ ボトラーズジャパンのマネジメントとワークショップ形式のディスカッションを経て、今後10年間変わらないと想定される「多様性の尊重(Inclusion)」「地域社会(Communities)」「資源(Resources)」の3つのプラットフォームと直近に取り組むべき9つの重点課題(マテリアリティ)が合意されました。

非財務目標

「CSV Goals」

「CSV Goals～共創価値創出に向けて～」は、社会変化をふまえて持続可能な未来の実現に向け、取り組むべき課題を抽出した上で、「環境」「社会」「ガバナンス」分野におけるCCBJHグループのコミットメントを明示したものです。

私たちは「CSV Goals～共創価値創出に向けて～」の達成に向けて、PDCAサイクルでCSV活動を推進していきます。

製品		● 100%	主要ブランドでのノー／低カロリー製品のラインナップ
		● 300%	特定保健用食品（トクホ）および機能性表示食品の販売数量増
		● 100%	パッケージ前面でのカロリー表示およびわかりやすい栄養表示
		● 100%	コカ·コーラシステム「責任あるマーケティングポリシー」の遵守
水		● 200%	水源涵養率。工場近辺の水源、流域に注力
		● 30%	水使用量削減（2030年までに）
気候変動		● 25%	温室効果ガス削減（2030年までに）
		● 再生可能エネルギーの推進	
World Without Waste（廃棄物ゼロ社会）	設計	● 50%	リサイクルPET樹脂の使用率（2022年までに）
		● 90%	リサイクルPET樹脂の使用率（2030年までに）
		● 100%	化石燃料を使わないサスティナブルPET樹脂の使用率（2030年までに）
		● 100%	リサイクル可能な容器の採用（2025年までに）
		● 35%	さらなるPETボトルの軽量化（2004年比）（2030年までに）
	回収	● 100%	販売量と同等の回収量（2030年までに）
	パートナー	● 環境保護団体や業界団体との幅広い連携（2030年までに）	
調達		● 100%	持続可能な原材料調達
人権		● 100%	CCBJHグループバリューチェーン上でのサプライヤー基本原則（Supplier Guiding Principles）の遵守
ダイバーシティ&インクルージョン		● 6%	女性管理職比率
社会		● 10%	社員のボランティア参加率
		● 100万人	コミュニティプログラム参加人数累計

記載のない限り、基準年は2015年、目標年は2025年

Check!

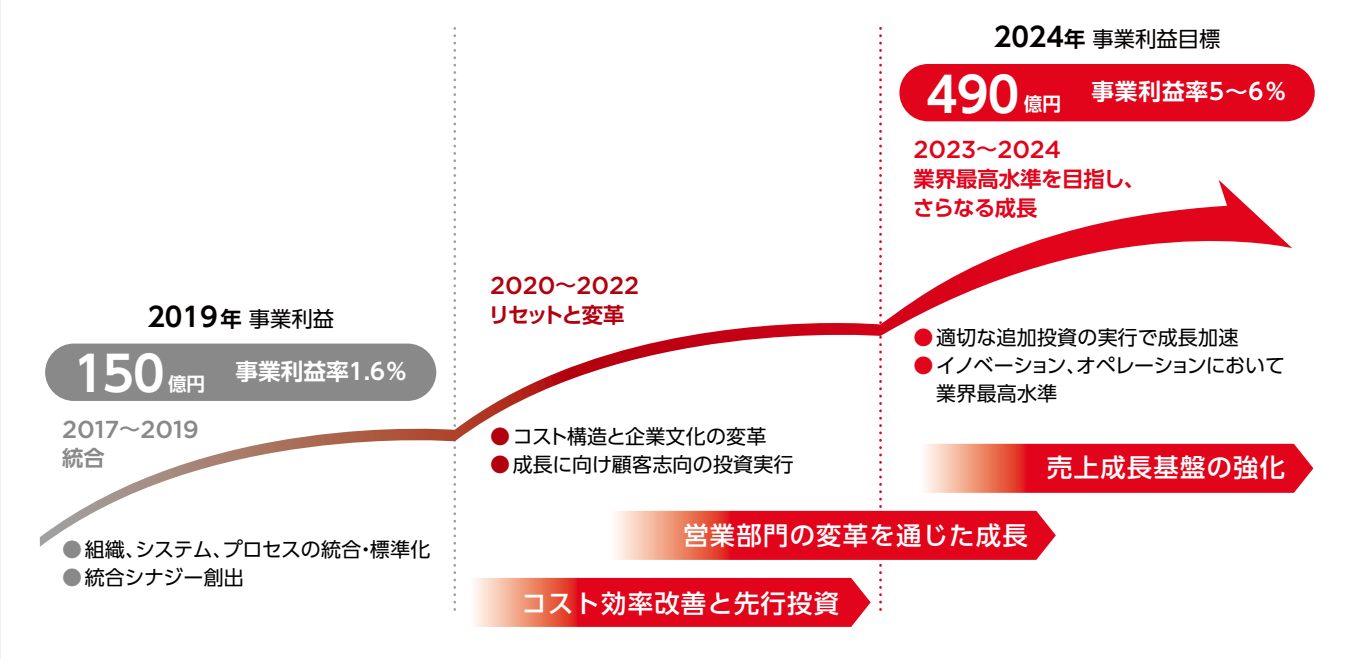
CSV Goalsの詳細・進捗
https://www.ccbji.co.jp/csv/csvgoal/

財務目標

中期計画

2019年8月に、2020年から2024年までの中期計画を発表しました。
2024年の事業利益率※1およびROEの目標を5～6%としており、「これまでのやり方は選択肢にない」という考えのもと、抜本的な変革を行うことにより、業界最高水準のイノベーションとオペレーションの実現を目指していきます。

成長軌道への回帰に向け抜本的な変革を進める



※1 事業利益は、事業の経常的な業績を計るための指標であり、売上収益から売上原価ならびに販売費及び一般管理費を控除するとともに、その他の収益およびその他の費用のうち経常的に発生する損益を加減算したものです。

2024年の主要指標・目指す姿

主要指標	2024年目標（増加目標は2019年比）
売上収益	売上収益: **年率+0.5～1%**　販売数量: **年率+1～1.5%**
事業利益率	**5～6%**
EPS（基本的1株当たり当期利益）	標準化EPS※2: **3倍以上**
ROE（親会社所有者帰属持分当期利益率）	**5～6%**
株主還元	中期的には**安定配当に注力**、長期的には配当性向**30%以上**

※2 事業利益に含まれない一時的な影響を除いたEPSのこと。

Check!
決算説明会資料
https://www.ccbj-holdings.com/ir/library/presentation.php

プラットフォーム

「多様性の尊重」への取り組み

私たちの取り組み

- インクルーシブな職場環境を実現した先進的な事例を提示する
- 多様な人材を育成し、地域社会のニーズに応え続ける

ダイバーシティ&インクルージョンの取り組み

CCBJHグループでは、社員一人ひとりの個性を尊重し、多様な価値観やアイデアを積極的に取り入れ革新を生み出し続けることが重要であるとし、ダイバーシティ&インクルージョンの推進に積極的に取り組んでいます。昨年より多国籍かつ女性の取締役を含んだマネジメント体制になり、これまで以上に多様な角度から課題を捉えて議論し意思決定を行うことで、さらなるダイバーシティ経営の実現に向かっています。

これからも個々人の属性や就労における制約要因に関わらずすべての社員が能力を最大限に発揮できる機会を提供していきます。

● 女性取締役との座談会「Dear Cafe」の開催

女性取締役から女性管理職に期待することに関する力強いメッセージや、参加者が日頃感じている悩みに対する具体的なアドバイスが与えられる場となりました。

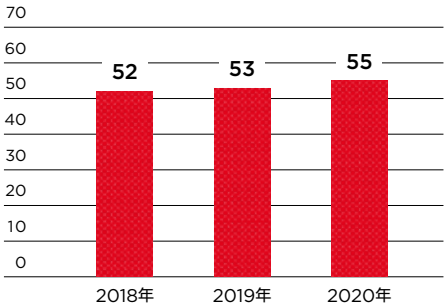
● 半年にわたる女性リーダー研修「To Be」の開催

リーダー職を対象とした研修を半年にわたり開催し、女性社員のパイプラインの強化を図っています。

女性取締役との座談会「Dear Cafe」

女性リーダー研修「To Be」

新入社員女性比率（大卒）（CCBJI単体）



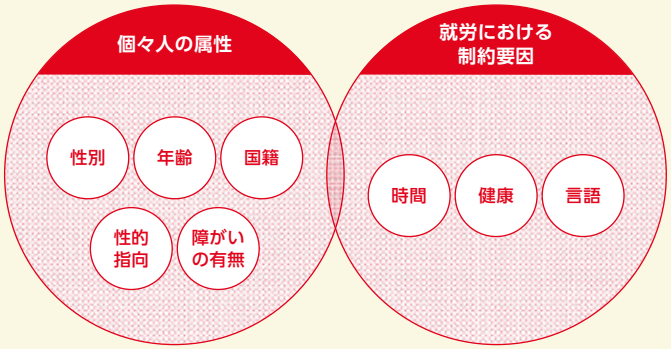
採用時の女性比率向上を加速し、2025年までに女性社員比率15％を目指します。（管理職比率6％）

Check!
「多様性の尊重」への取り組み
https://www.ccbji.co.jp/csv/

ダイバーシティ&インクルージョン中長期ビジョン

社員一人ひとりの多様性を尊重することで、性別、年齢、障がいの有無、国籍、性的指向等の属性や、個々人が抱えている制約要因に捉われずに、すべての社員が能力を最大限に発揮できる機会を提供していきます。

個々人の属性や就労における制約要因に関わらず
すべての社員が能力を最大限に発揮できる機会を提供



障がい者の活躍を推進!「特例子会社」開所式を開催

当社グループは、ダイバーシティ&インクルージョンに関するポリシーを制定し、社員一人ひとりの多様性を尊重することで、性別、年齢、障がいの有無、国籍、性的指向等の属性によらず、すべての社員が能力を最大限に発揮できる機会を提供し、多様な社員がさまざまな意見や価値観を受容してイノベーションを創出し続けることを目指し、ダイバーシティ推進に取り組んでいます。

CCBJIグループのひとつであるコカ·コーラ ボトラーズジャパンベネフィット(CCBJB)は、障がい者の雇用機会の確保を行う企業として、「特例子会社」として認定されたことを受け、2019年11月20日に開所式を開催しました。

「特例子会社」とは、障がいのある方の雇用の促進、安定を図るために設立され、障がいや特性に対するサポート環境が整っており、障がいの程度に関係なく働くことが可能な会社を指します。

CCBJBは、「特例子会社」認定により、さらなる障がい者の活躍を推進するとともに、積極的な雇用の創出にも力を注いでいます。

特例子会社 開所式

社内活性化&コミュニケーション、「Friends & Family Fes 2019」の開催

社員の家族や大切な人々に感謝するとともに私たちの会社を深く理解し、その魅力を実感していただくために、2019年8月20日、当社の赤坂オフィスをメインに「Friends & Family Fes(フレンドアンドファミリーフェス)2019」を開催しました。当日、参加した107組328人に、「コカ·コーラ ボトラーズジャパンファミリー」を実感する"ひととき"を過ごしていただきました。会場では、Kids英語教室、ミックスドリンクづくりや缶バッジづくり、当社のコカ·コーラレッドスパークス所属のラグビー選手やアスリート社員と行うスポーツ体験などの楽しいプログラムが行われ、普段は訪れることのないオフィスのツアーも実施しました。

今後も、社員一人ひとりが「コカ·コーラ ボトラーズジャパン」に誇りを持ち、誰もが働きたいと思う職場づくりに取り組みます。

Friends & Family Fes 缶バッジづくり体験

プラットフォーム

「地域社会」への取り組み

私たちの取り組み

- 私たちが暮らし、働く地域社会とのパートナーシップというかけがえのない財産を大切にし、ニーズや高い目標に応えていく
- 地域社会の潜在的な力を活かし、各プラットフォームの活動を推進する

水資源保護活動の実施

私たちは、みなさまに水源涵養や自然保護の重要性を理解していただくことを目的として、環境教育プログラムを各地で開催しています。また、製品に使用した水と同等量の水を自然に還すために、各水源域の特性に応じた植林や間伐、水田湛水、草原再生など水資源の保全活動を通じて水源涵養（Replenish）能力を高め、水を育む活動を行っています。

2019年は、製造工場の水源域12カ所において、地域のみなさまと社員、その家族総勢421人が水資源保護活動を行いました。そのうち、4月に開催したコカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト in 宮崎えびのには、地域のみなさまを含む81人が参加。竹林整備やしいたけの植菌、木工体験を行い、かけがえのない水の大切さを学びました。

コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト in 宮崎えびの

社会課題解決へ向けた若者との取り組み

私たちは、地域が抱える社会課題の解決に向けて、地域行政や教育機関、市民団体など産官学連携の取り組みを行っています。これまで宮城県、福島県、栃木県、三重県において、地域で課題となっているテーマを取り上げ、若者たちが主体のワークショップや活動発表、表彰制度などさまざまな事業を実施してきました。

仙台若者アワード

Check!
「地域社会」に関する主な取り組み
https://www.ccbji.co.jp/csv/

ミエミライ（三重県） 地域のみなさまとワークショップを開催

2019年、宮城県では仙台市と一般社団法人ワカツク、CCBJIの三者が、地域課題解決に取り組む若者の活動をより活発化し、今後のさらなる活躍を推進することを目的とした「仙台若者アワード」を企画・運営しました。これからもみなさまに選ばれるパートナーを目指し、地域とともに住み続けられる豊かなまちづくりを推進していきます。

工場見学の開催

私たちは、工場見学をお客さまやお得意さまをはじめとするあらゆるステークホルダーのみなさまとのダイレクト・コミュニケーションの場と位置づけ、蔵王（宮城県）、多摩（東京都）、東海（愛知県）、京都（京都府）、えびの（宮崎県）の5工場で見学を実施しています。2019年は、約17万人のお客さまに来場いただきました。

「コカ・コーラ」の世界観あふれる見学施設では、実際に製造ラインをご覧いただきながら、高い品質を保つための厳しい管理基準、環境や地域における取り組みなどをわかりやすくお伝えしています。

工場で学ぼう!サマースクール

また、特別企画として夏休みにはご家族向けに「工場で学ぼう!サマースクール」や、お得意さま向けの工場見学も行っています。京都工場では、京都外国語大学の学生たちと連携し、世界各国の環境への取り組みを文化や英語とともに知っていただく「Let's Enjoy 外国語で環境2019」を開催しました。

工場見学を通じてコカ・コーラ社製品の製造工程や徹底した安全衛生、環境保全への取り組みなどをわかりやすくお伝えすることで、安心してコカ・コーラ社製品を手に取っていただけるよう情報を発信しています。

水分補給セミナー・飲育（いんいく）セミナーの開催

近年増加している熱中症の予防啓発のため、水分補給セミナーを実施しています。2019年は、お得意さまや学校を中心に約6,100人へ各地域でセミナーを実施しました。

また、個々のライフスタイルや体調に合った製品を正しく選んでいただくために、2018年から飲育セミナーも開催しています。水分補給の重要性に加えて、さまざまな飲み物の種類やパッケージ表示の見方など、生活に役立つ飲料に関する情報をお伝えしています。参加者からは、「補水の意識づけをするきっかけになった」「こまめな水分補給を心がけたい」や、「その時々に合った飲み物の選び方がわかった」「ワークショップもあり楽しく学べた」などの感想が寄せられています。

今後もみなさまのお役に立つセミナーを継続して開催し、健康的な生活づくりの促進に貢献していきます。

水分補給セミナー
実施回数
38回
（前年44回）

水分補給セミナー
参加者数
6,100人
（前年7,000人）

飲育セミナー
実施回数
20回
（前年24回）

飲育セミナー
参加者数
1,900人
（前年1,600人）

プラットフォーム

「資源」への取り組み

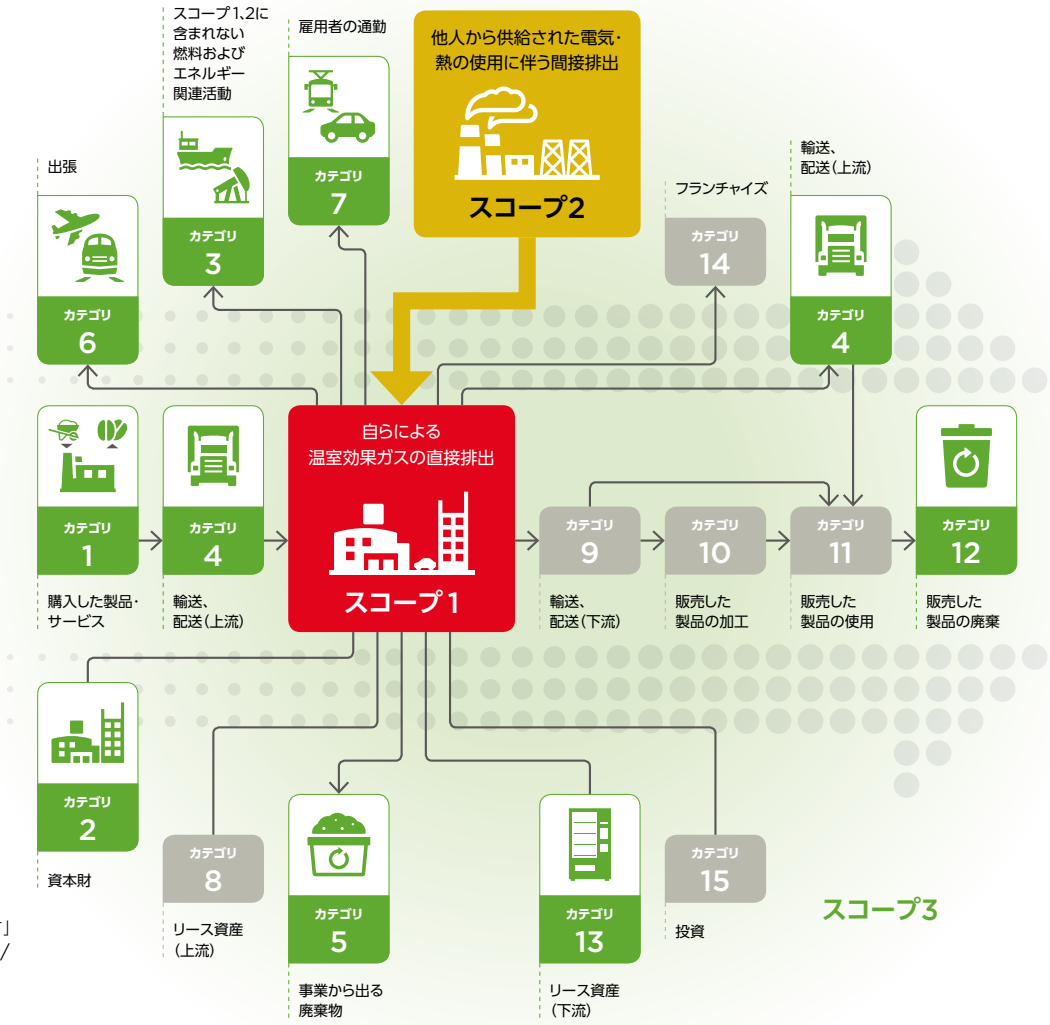
私たちの取り組み

- 資源を持続可能な方法で利用するために継続的な改良・工夫をする
- 日本国内の環境保全に貢献する

CO_2排出実績および算定方法

事業活動を行うにあたり、気候変動の緩和を考慮することは非常に重要な課題です。二酸化炭素（CO_2）に代表される温室効果ガス排出量を「見える化」することによって、多くのステークホルダーとともに、温室効果ガスの排出実態および対策情報などを把握・共有し、削減につなげるコミュニケーション手段としていきます。

CCBJHグループに関わるスコープ1、2、3の排出源



※ 出典：環境省・みずほ情報総研
「サプライチェーン排出量の算定と削減に向けて」
https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/files/SC_syousai_all_20191126.pdf

Check!

「資源」に関する主な取り組み
https://www.ccbji.co.jp/csv/

CO_2排出実績（2019年）および算定方法

スコープ		排出実績（t-CO_2）			算定方法	
		CCBJIグループ	キューサイグループ	CCBJHグループ（合計）	活動量	原単位
スコープ1	自らによる温室効果ガスの直接排出	190,495	1,057	191,551	オフィスやセールスセンター、工場、物流などの燃料使用量	「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアルVer1.2」（環境省・経済産業省（2007年2月））を参考に、日本のコカ·コーラシステムが独自に定めた値を採用
スコープ2	他人から供給された電気・熱の使用に伴う間接排出	155,008	2,011	157,019	オフィスやセールスセンター、工場などの電気の使用量	電気の原単位（CO_2排出係数）は電気事業連合会（2005年発表）による2004年度の全電源平均排出係数0.421kg-CO_2/kWhを採用

スコープ	カテゴリ		排出実績（t-CO_2）			算定方法	
			CCBJIグループ	キューサイグループ	CCBJHグループ（合計）	活動量	原単位
スコープ3	1	購入した製品・サービス	1,058,706	10,145	1,068,852	原材料・資材の調達量（重量ベース）	ザ コカ·コーラ カンパニーによるEmissions Factorsに基づく
	2	資本財	30,738	284	31,022	有形固定資産額の当年度増加額（純額）	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.2.4）に記載された資本財の価格あたり排出原単位
	3	スコープ1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	45,991	64	46,055	燃料・電気・熱の使用量	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.2.4）に記載された燃料調達時の排出原単位
	4	輸送、配送（上流）	112,905	1,480	114,385	外部委託の輸送による燃料の使用量	「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアルVer1.2」（環境省・経済産業省（2007年2月））を参考に、日本のコカ·コーラシステムが独自に定めた値を採用
	5	事業から出る廃棄物	21,363	168	21,531	廃棄物の重量もしくは費用	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.2.4）に記載された廃棄物種類・処理法別排出原単位
	6	出張	4,364	266	4,630	社員の出張に伴う支払費用	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver2.4）に記載された交通費支給額あたり排出原単位に基づく
	7	雇用者の通勤	4,162	141	4,304	社員の通勤に伴う支払費用	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver2.4）に記載された交通費支給額あたり排出原単位に基づく
	8	リース資産（上流）	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
	9	輸送、配送（下流）	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
	10	販売した製品の加工	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
	11	販売した製品の使用	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
	12	販売した製品の廃棄	31,533	282	31,815	容器包装リサイクル法に基づき申請した容器包装のリサイクル重量	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.2.4）に記載された廃棄物種類・処理法別排出原単位
	13	リース資産（下流）	331,962	0	331,962	販売機材（飲料自販機）の電力使用量	自動販売機1台当たりの年間電力使用量に当年度の稼働台数を乗じて算出。ただし、電気の排出係数は、一律0.421kg-CO_2/kWhを採用
	14	フランチャイズ	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
	15	投資	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
スコープ3 合計値			1,641,724	12,831	1,654,555		

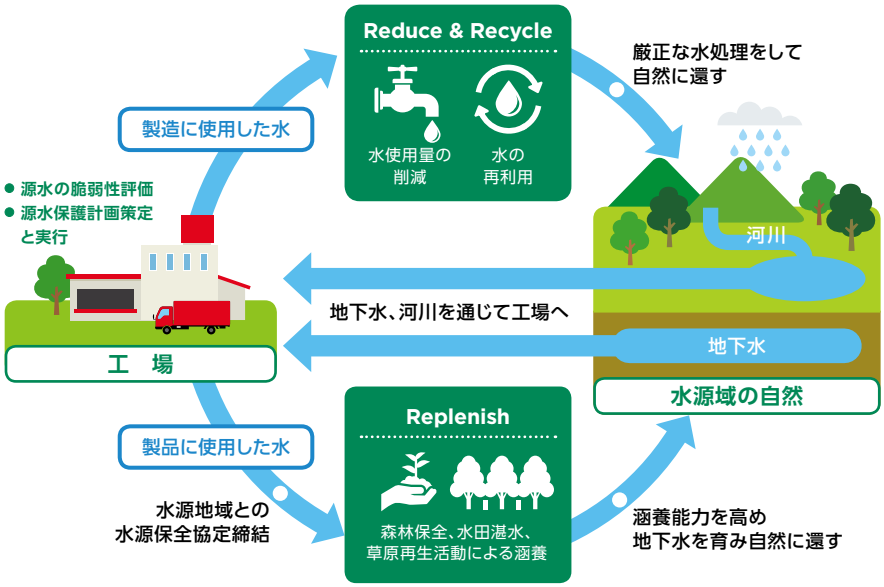
水資源保護の推進

私たちは、かけがえのない「水」を使用しビジネスを行う企業として、「2030年までに水使用量30%削減」および「2025年まで水源涵養率200%維持」の目標を掲げて水資源保護を推進しています。
工場では自然の恵みである水をムダにすることがないように、製品を製造するために使う水の量を厳しく管理し、製造プロセスや工場設備を常に見直し改善につなげています。2019年は、製品1ℓを製造する際に使用した水(WUR:Water Use Ratio)は3.26ℓ/ℓと前年より0.07ℓ/ℓ削減しました。また、製品の製造に使用した水と同等量の水を自然に還す取り組みを進め、水源エリアで持続的に水を育み蓄える力を持ち続けていけるよう、地域、専門家の方々と協力して水資源保護に努めています。2019年の水源涵養率は、322%(前年+45%)を達成しました。

コカ・コーラシステムの考える水の循環

コカ・コーラシステムでは、工場で使用する源水保護のために、日本コカ・コーラが定める源水保護ガイドラインに沿って定期的に「源水の脆弱性評価」を行い、「源水保護計画」を策定しています。同計画のもと、私たちの工場では「製造に使用した水」の水使用量の削減(Reduce)のため、洗浄水や冷却水として使用した後に回収・処理を行い可能な限り再利用(Recycle)した後、適正に処理した上で河川へ放流し自然へ還元しています。

そして「製品に使用した水」は、専門機関の科学的な調査を通じて特定した水源域において、間伐、植林、水田湛水、草原再生といった保全活動を行い、自治体や森林組合、土地所有者、地域のみなさまと長期的な協定を結び、豊富な地下水を育む水源涵養(Replenish)によって、恵みの「水」を大切に使い自然へ還元する取り組みを展開しています。



製造に使用した水	製品1ℓを製造する際に使用した水
13,316,017m³ (前年比-4.87%)	(WUR:Water Use Ratio) 3.26ℓ/ℓ (前年差-0.07ℓ/ℓ)

製品に使用した水	水源涵養面積	水源涵養率
4,080,744kℓ (前年比-2.77%)	約7,613ha (前年差+640ha)	322% (前年比+45%)

工場の取り組みと水源域の活動

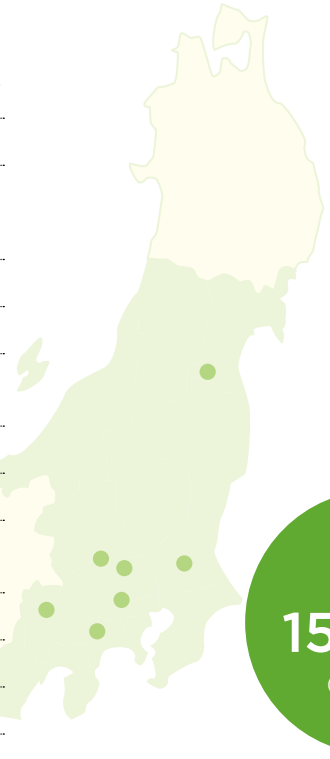
● 「水使用量の30%削減」へ向けた工場の取り組み

熊本工場、白州工場では、薬剤を使用しない電子線殺菌を行うEB(Electron Beam)滅菌システムを採用し、従来に比べて水使用量の削減を実現しました。新ラインへの投資を行うなど、積極的に最新技術を導入することで、水使用量の削減に取り組んでいます。また、システムを活用した水使用量のデータ管理／分析による改善も日々行っています。

● 「水源涵養率200%維持」へ向けた水源域の活動

2019年4月、明石工場の水源域では初めて、兵庫県をはじめとする地域のみなさまと約655haの森林において「森林保全に関する協定」を締結し、10年間にわたる水源保全活動を開始しました。今後も、全工場の水源域で水源保全に関する協定の締結を進め、地下水を育む活動を継続・拡大していきます。この活動によって育まれた「水」は、長い年月を経て地下水となり、河川を通じて工場へ届き、製品の製造に使用する「水」として使用されます。

製造工場(所在地)	水源協定地域	水源涵養率	水源涵養面積
蔵王工場(宮城県)	宮城県蔵王町	118%	235ha
埼玉工場(埼玉県)	群馬県 利根郡片品村	164%	1,545ha
岩槻工場(埼玉県)			
茨城工場(茨城県)	茨城県石岡市	409%	1,000ha
多摩工場(東京都)※1	—	—	—
海老名工場(神奈川県)	神奈川県 厚木市、海老名市	702%	1,476ha
白州工場(山梨県)※1	—	—	—
東海工場(愛知県)	岐阜県恵那市	94%	142ha
京都工場(京都府)	京都府 綴喜郡宇治田原町	231%	307ha
明石工場(兵庫県)※2	兵庫県丹波篠山市	328%	655ha
大山工場(鳥取県)	鳥取県西伯郡伯耆町	1,084%	427ha
広島工場(広島県)※3	広島県三原市	—	705ha
小松工場(愛媛県)	愛媛県西条市	363%	146ha
鳥栖工場(佐賀県)	佐賀県鳥栖市	190%	451ha
基山工場(佐賀県)	佐賀県基山町		
熊本工場(熊本県)	熊本県阿蘇市、 菊池郡大津町	342%	320ha
えびの工場(宮崎県)	宮崎県えびの市	625%	203ha



水源保全
協定締結
15/17工場
(前年+1工場)

※1 多摩工場、白州工場は水源保全協定未締結(2019年末現在)
※2 明石工場は2019年に初めて水源保全協定締結
※3 広島工場は2020年6月より稼働

水源涵養率(Replenish率)(%)

$$\frac{\text{面積(ha)} \times 10{,}000 \times \text{降水量(m)} \times \text{涵養効果}}{\text{生産量(kℓ)}} \times 100$$

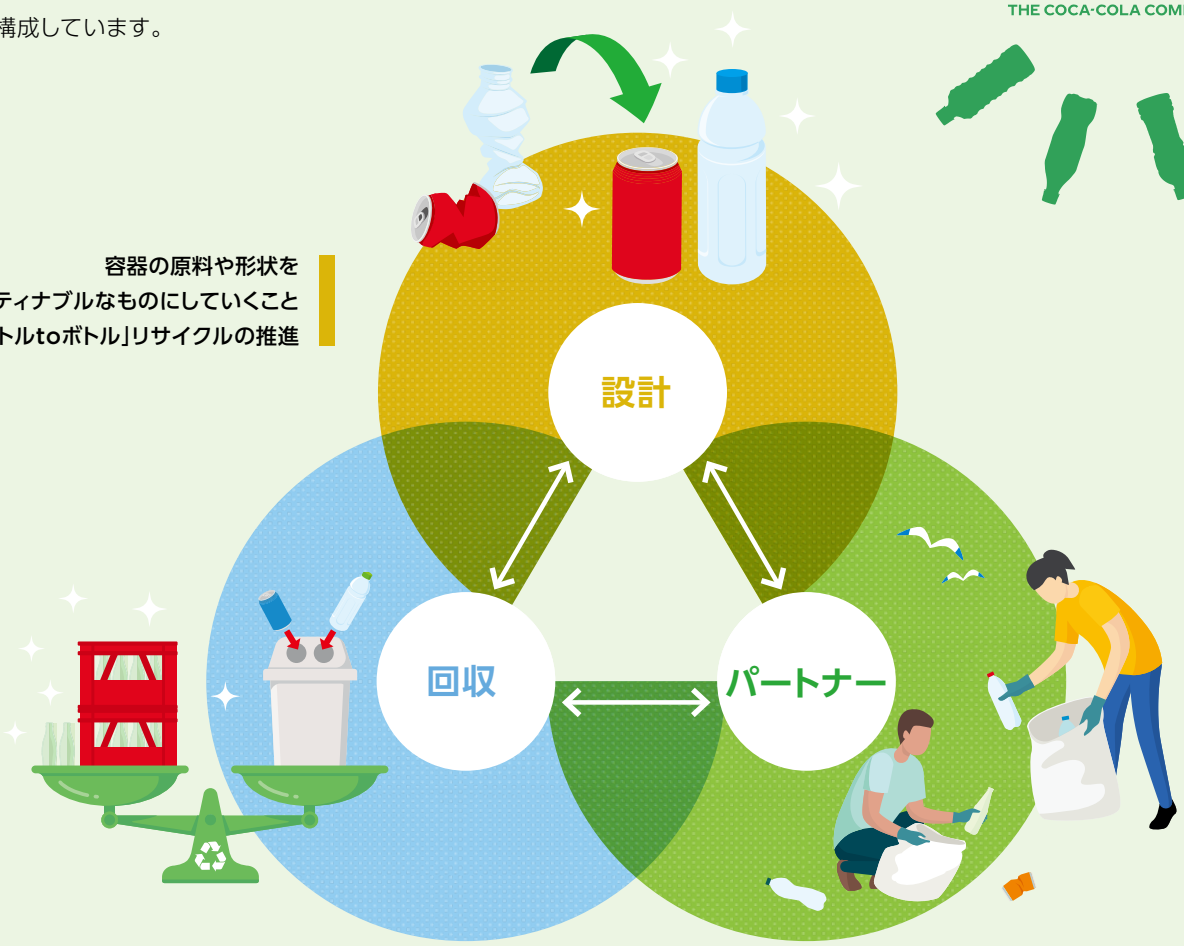
「廃棄物ゼロ社会」に向けた取り組み

米国のザ コカ・コーラ カンパニーは、2018年に環境への負荷を軽減するために、「World Without Waste（廃棄物ゼロ社会）」の実現をグローバル目標として掲げました。
これを受けて、日本のコカ・コーラシステムは、40年にわたる容器軽量化による省資源への取り組みや、容器の回収・リサイクルへの取り組み等を通じて得た知見に基づいて、2018年1月に「容器の2030年ビジョン」を設定しました。2019年7月にはこれを更新し、従来の目標達成の前倒しを含めたグローバルプランよりもさらに高い水準を目指す日本のコカ・コーラシステム独自の新たな環境目標を発表しました。

「容器の2030年ビジョン」3つの柱

「World Without Waste（廃棄物ゼロ社会）」の実現には製品のライフサイクルにおける包括的な取り組みと、地域社会のパートナーとの協働が不可欠であるとの認識のもと、「容器の2030年ビジョン」は「設計」「回収」「パートナー」という3つの柱で構成しています。

world without waste
THE COCA-COLA COMPANY



容器の原料や形状をサスティナブルなものにしていくこと「ボトルtoボトル」リサイクルの推進

販売した自社製品と同等量の容器を回収&リサイクル

政府、自治体、飲料業界、地域社会との協働を通じ、より着実な容器回収・リサイクルスキームの構築と維持

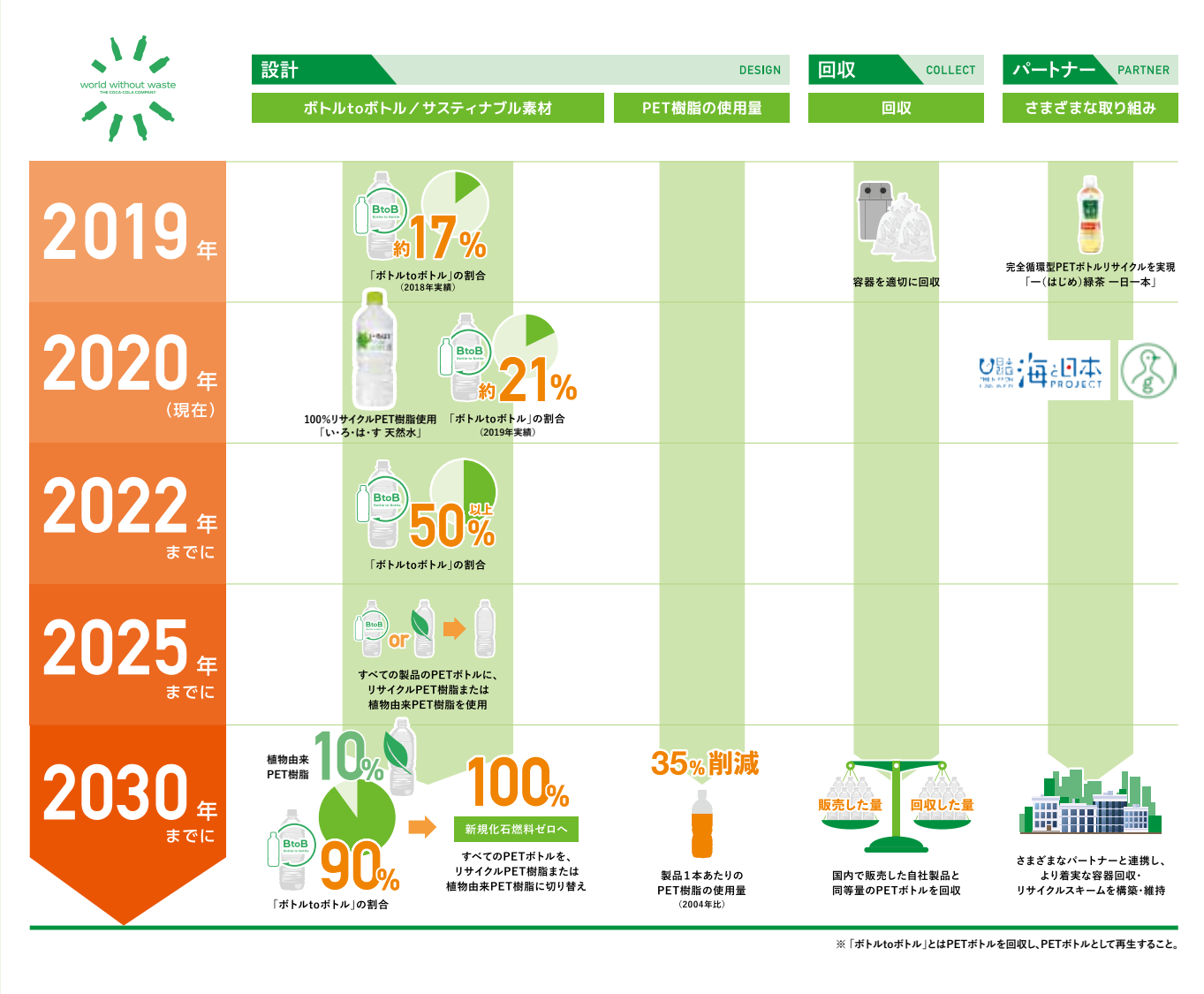
2030年に向けたロードマップ

3つの柱の「設計」「回収」「パートナー」における取り組みでは、具体的な目標を設定しています。

「設計」では、①使用済みPETボトルから、もう一度PETボトルに生まれ変わらせる「ボトルtoボトル」を推進し、2022年までにリサイクルPET樹脂の使用率50%以上を目指します（2019年実績：約21%）。2030年には「ボトルtoボトル」の割合を90%まで高めます。②2025年までに、PETボトル、ビン、缶など、日本国内で販売するすべての製品の容器をリサイクル可能な素材へと変更します。③2030年までにすべてのPETボトルを100%サスティナブル素材に切り替え、新たな化石燃料の使用ゼロを目指します。④2030年までに、製品1本あたりのPET樹脂の使用量を35%削減（2004年比）します。

「回収」では、2030年までに、日本国内で販売した自社製品と同等量のPETボトルを回収します。また、消費者に向けて、「ラベルをはがし、キャップを取ったら“ごみ”ではなく“資源”になる」という正しいリサイクル知識を広める啓発活動を積極的に進めるほか、清掃活動を通じて地域の美化にも努めます。

「パートナー」では、政府や自治体、飲料業界、地域社会との協働を通じて、すでに極めて高い水準にある日本国内のPETボトルと缶の回収・リサイクル率のさらなる向上に取り組むとともに、より着実な容器回収・リサイクルスキームの構築と、その維持を目指します。



CCBJHグループの最新の取り組み

設計

「ボトルtoボトル」リサイクルで「い·ろ·は·す 天然水」が100%リサイクルPETに

コカ·コーラシステムは、使用済みPETボトルが回収·リサイクルされ、またPETボトルとして生まれ変わる「ボトルtoボトル」を推進しています。2020年3月には、ナチュラルミネラルウォーターブランド「い·ろ·は·す」の「い·ろ·は·す 天然水」に、100%リサイクルPET素材を用いたPETボトルを導入しました。これまで30%にとどまっていたリサイクルPET素材の使用率が、リサイクルボトルの透明度を高める技術の革新とパートナー企業の協力によって100%に到達。容器の循環利用に大きな貢献を果たす“次世代PETボトル”が誕生しました。

「い·ろ·は·す 天然水 ラベルレス」も登場！

製品にラベルをはらない「い·ろ·は·す 天然水 ラベルレス」を2020年4月からオンラインにて全国で順次発売。

「い·ろ·は·す 天然水 100%リサイクルペットボトル」が実現する環境への配慮

01

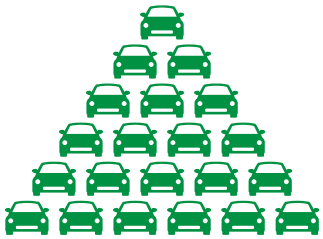
PETボトルを資源として循環利用する“ボトルtoボトル”

使用済みPETボトルをリサイクルし、新たなPETボトルへ生まれ変わらせることで、資源を最大限活用

02

年間で自動車※1およそ4,000台分の重さに相当する石油から新規に製造されるプラスチックの使用を削減

石油から新規に製造されるプラスチックの使用を大規模に削減※2し、環境負荷を低減

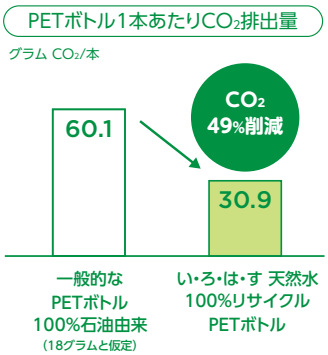


年間、自動車
約4,000台分の
プラスチック使用量を削減

03

PETボトル1本あたりのCO_2排出量を49%削減

一般的なPETボトル※3と比較して、PETボトル1本あたりのCO_2排出量を49%削減し、環境負荷を低減



※1 一般的な小型自動車1台をおよそ1トンで換算した場合　※2 「い·ろ·は·す 天然水」の従来品555mlとの比較　※3 石油由来100%のPETボトル

回収

地域のみなさまと協働で清掃活動を実施

容器の回収・リサイクル率をさらに向上させるために、各地の支店や工場近隣の清掃をはじめ、多くの社員が積極的に地域の清掃活動に参加しています。2019年11月18日には、日本コカ・コーラとCCBJHグループの社員総勢約750人が、釣ヶ崎海岸（千葉県）や渋谷（東京都）、など全国9カ所で一斉に清掃活動を実施しました。これには、両社のトップマネジメントも参加し、社員や地域のみなさまとともに活動を行いました。

パートナー

清涼飲料業界全体としての取り組み

私たちは、一般社団法人全国清涼飲料連合会が2018年11月に発表した、2030年度までにPETボトルの100%有効利用を目指す「清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言」に賛同し、業界との協働による取り組みを進めています。2019年5月より容器のリサイクル推進や散乱発生防止を目的に、業界統一デザインの消費者啓発ステッカー20万枚以上を首都圏、東海、近畿など繁華街を中心としたエリアの自動販売機専用空容器リサイクルボックスに貼付し、空容器以外の異物を投入しないよう呼び掛けています。

パートナー

日本財団との廃棄物流出メカニズム共同調査

日本のPETボトル回収率は約98%※以上と推計され、残り2%未満が回収されずに河川や海へ流出している可能性があると考えられます。そこで、日本財団と日本のコカ・コーラシステムがタッグを組み、回収できていない2%未満について、原因究明のための共同調査を開始しました。調査結果は業界全体にフィードバックされ、効果的な回収・河川や海への流出防止のための政策立案などに役立てられています。

※複数の自治体によるごみの実態調査をもとに、日本コカ・コーラが推計

社員の理解を促進するためにe-ラーニングを実施

「容器の2030年ビジョン」の達成には、社員の力が不可欠です。そのためには、社員一人ひとりが資源循環の促進、海洋ごみ問題など、容器由来のさまざまな社会課題を理解すること、PETボトルを扱う企業の一員として環境配慮に対して高い意識を持つことが重要であると考え、CCBJHグループ社員を対象にe-ラーニングを実施しています。

CCBJHグループの概要

会社概要(2019年12月31日現在)

名称	コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社 Coca-Cola Bottlers Japan Holdings Inc.
設立	1960年(昭和35年)12月20日 ※2018年1月1日 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社に商号変更
決算期	12月31日
資本金	15,232百万円
代表者	代表取締役社長　カリン・ドラガン
上場取引所	株式会社東京証券取引所(市場第一部)

※2019年12月31日時点では証券会員制法人福岡証券取引所に上場しておりましたが、同取引所には上場廃止を申請しており、所定の手続きを経て、上場廃止となる予定です。

グループ体制図

外部評価

Dow Jones Sustainability Indices (DJSI)

CDP

準なでしこ銘柄

えるぼし

くるみん

健康経営優良法人 ホワイト500

新・ダイバーシティ経営企業100選

日経スマートワーク経営調査 4星

スポーツエールカンパニー

work with Pride

ISO-国際標準化機構

食品安全マネジメントシステム FSSC 22000

このほか、2019年度「東京都障害者雇用エクセレントカンパニー賞」産業労働局長賞を受賞。

※当社やグループ会社が取得したものです。

工場見学のご案内

コカ・コーラ社製品を多くのみなさまに親しんでいただくため、工場見学を実施しています。「コカ・コーラ」誕生のエピソードや歴史、品質管理や環境への取り組みをご紹介するとともに、迫力ある製造ラインを見学いただけます。みなさまのご来場をお待ちしています。

ご予約の際は事前にウェブサイトをご確認ください。

https://www.ccbji.co.jp/plant/

蔵王工場

宮城県刈田郡蔵王町宮字南川添1-1

電　話：0224-32-3505
開催日：月曜日～金曜日、一部土曜日、祝日
（臨時休業日あり）

東海工場

愛知県東海市南柴田町
トの割266-18

電　話：052-602-0413
開催日：月曜日～金曜日、一部土曜日、祝日
（臨時休業日あり）

多摩工場

東京都東久留米市野火止1-2-9

電　話：042-471-0463
開催日：月曜日～金曜日、一部土曜日、祝日
（臨時休業日あり）

京都工場

京都府久世郡久御山町
田井新荒見128

電　話：0774-43-5522
開催日：火曜日～日曜日、月曜日が祝日の場合は開催
（臨時休業日あり）

えびの工場

宮崎県えびの市
大字東川北字有留1321-1

電　話：0984-25-4211
開催日：火曜日～日曜日、月曜日が祝日の場合は開催
（臨時休業日あり）

BOTTLERS JAPAN HOLDINGS INC.

新型コロナウイルス感染症への対応状況

当社は、新型コロナウイルス感染拡大に対し、消費者のみなさま、お得意さま、社員の安全と健康を確保していくことを最優先とし活動しています。また、困難な時期ではあるものの、私たちのミッションに基づいて、すべての人にハッピーでさわやかなひとときをお届けすべく、包括的な対策を行いつつ、安全・安心な製品の供給を継続し、日常生活に必要不可欠な製品・サービスの提供に努めています。当社は、製品(飲料)を通じてさまざまな地域社会への支援を実施しており、今後も取り組みを継続してまいります。

- 政府の指針に沿った感染対策の強化
- 感染の可能性や懸念を持つ社員をサポートするための明確なアドバイスと情報共有
- リモートで可能なすべての業務について積極的に在宅勤務を実施
- 社員の海外渡航を制限
- 小中高等学校などの休校中に育児支援が必要な社員のサポート
- 対面での大規模な会議を可能な限り中止
- 工場見学の受け入れ中止、当社事業所訪問者に対して厳格な制限を設定
- 当社の全事業所において事業継続のための計画を強化し、あらゆるシナリオを想定

日本医師会を通じた「感染症指定医療機関」などへの清涼飲料の無償提供

当社を含むコカ・コーラシステムは、医療従事者のみなさまを応援するため、医療機関などに対して清涼飲料約130万本を寄贈する「Refresh Japan」プログラムを開始しました。公益社団法人 日本医師会様を通じ、5月中旬より当社各セールスセンターから感染症指定医療機関への配送を進めています。

CSVレポートフルページPDF版

Check!

「CSVレポートフルページPDF版」は、当社ウェブサイトで紹介しています。

https://www.ccbji.co.jp/csv/doc.php

CSVレポート2020 アンケート

Check!

下記のURLまたはQRコードよりアクセスしてください。

https://form.ccbji.co.jp/form/csv2020

今後のCCBJHグループの取り組みや、CSVレポートの制作の参考にさせていただくため、アンケートを実施しています。みなさまのご感想やご意見などをお聞かせください。

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

〒107-6211
東京都港区赤坂九丁目7番1号ミッドタウン・タワー

お問い合わせ
ウェブサイトの「お問い合わせ」フォームをご利用ください。
https://www.ccbj-holdings.com/inquiry/

©2020 Coca-Cola Bottlers Japan Holdings Inc. All Rights Reserved.